

第1号議案

平成26年度事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人 森ノオト

1 事業の成果

NPO法人森ノオト設立2年目は、多くの時間と労力を「次世代郊外まちづくり 住民創発プロジェクト」に費やした。1～9月の認定期間中に一定の成果を出すことを目標に、住民参加の出版プロジェクト『たまプラーザの100人』の上梓、9月には森ノオトの姉妹組織・非営利型株式会社たまプラーザぶんぶん電力の設立に至った。メディア事業は通年の取り組みとしておこない、本年度は新たに8名がリポーターとして参加。積極的に地域に出て、多くの人に読まれる記事を配信した。前年度に引き続き、青葉区役所の委託でおこなった「3R 夢なクッキング」は区内全6地区センターで開催、好評を博した。地産地消マルシェ「あおばを食べる収穫祭2014」ではごみの総量を1袋まで削減できるなど、環境活動への効果を一般に見える化することに成功した。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 環境や社会活動の普及・啓発事業

ア 【自主事業】横浜あおば発 地元のエコ発見メディア「森ノオト」の運営

・内 容

本NPOのメイン事業は、横浜北部に住む子育て世代の主婦が「エコ」を切り口に、生活に密着した地元の情報を発信すること。25名のリポーターが年間250もの記事を発信した。NPOの自主事業の告知・報告や、地域での環境啓発に寄与。また、取材を通じた主婦の社会活動として注目を集めた。

・日 時 通年

・場 所 主に横浜市青葉区・都筑区・川崎市宮前区・麻生区など

・従事者人員 26人

・受益対象者 読者 約20,000人(月間)

・支出額 1,226,310円

イ 【委託事業】青葉区区民活動支援センター啓発チラシ制作

・内 容

横浜市市民活動支援センターからの委託を受け、青葉区区民活動支援センターのリーフレット「あおばのまち活コンシェルジュ」を制作した。2013年度から継続して7回に及ぶ編集会議に参加し、地域活動団体の代表者やセンター職員とのやりとりを重ねた。リーフレットは青葉区内の多くの公共施設に配架され、わかりやすさが評判になった。

・日 時 2013年8月～2014年3月

・場 所 横浜市青葉区全域

・従事者人員 2人

・受益対象者 横浜市青葉区の住民

・支出額 82,044円

ウ 【助成事業】次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクト<シビックメディア>

・内 容

横浜市と東急電鉄がたまプラーザエリアで進める次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクトに参画し、地域住民が地域住民取材し1冊の本にまとめる『たまプラーザの100人』を企画、運営、編集、出版した。3回にわたる編集ワークショップをお

こない、26名の住民記者を輩出。地域に暮らす100人を選出して取材し、印刷費用はクラウドファンディングで調達した(目標額50万円に対し117%の達成)。10月に1200部発行、たまプラーザの有隣堂、3丁目カフェで販売している。

- ・日時 2014年1月～9月
- ・場所 横浜市青葉区内
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 主に横浜北部在住の横浜市民 1200人
- ・支出額 1,000,623円

エ 【自主事業】森ノオトリポーター養成講座

- ・内容
メディア事業を担う新しいリポーターを募集し、取材の仕方、記事の書き方、写真の撮り方、メディアリテラシーやSNSの活用といった具体的ノウハウを伝授した。参加者10名のうち8名が森ノオトリポーターとして参加した。
- ・日時 2015年1月～3月(計4回)
- ・場所 ウィズの森
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 10人
- ・支出額 19,000円

オ 【委託事業】「ママはお天気博士 平井信行さん講演会」企画・運営

- ・内容
横浜市温暖化対策統括本部によるヨコハマ・エコ・スクール事業「18区 deYES」での男女共同参画センター横浜北との共同企画。同団体が主催し、森ノオトは運営を担当した。NHKの天気予報で人気の気象予報士・平井信行さんをお招きして、地球温暖化と日々の天気の関係、異常気象から家族を守るための技をご講演いただいた。
- ・日時 2014年3月18日
- ・場所 アートフォーラムあざみ野
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 主に青葉区民 70人
- ・支出額 8,000円

カ 【委託事業】県民記者ボランティア講座

- ・内容
富士通研究所の委託を受け、かながわコミュニティカレッジでの「県民記者ボランティア養成講座」の講師(第1回取材術・第3回写真撮影術)を担当した。
- ・日時 2014年6月
- ・場所 神奈川県民ボランティアセンター(横浜市中区)
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 主に神奈川県民 15人
- ・支出額 17,000円

キ 【自主事業】いのちの森づくり見学ツアー

- ・内容
平塚市にある福祉作業所「進和学園」では、どんぐりから苗をつくり、植樹活動をしている。森づくりと人づくり、仕事づくりがつながる先進的な取り組みに学ぼうと、進和学園の見学ツアーを企画、苗の移植体験、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生指導によ

るいのちの森の見学、ホンダの部品工場見学などをおこなった。

- ・日 時 2014年7月19日
- ・場 所 平塚市
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 主に横浜市青葉区民 15人
- ・支出額 44,229円

ク 【委託事業】3R 夢なクッキング講座

・内 容

青葉区から委託を受け、昨年度に引き続き、横浜市の進めるごみの減量キャンペーン「ヨコハマ 3R 夢 (スリム)」の啓発講座を青葉区内全6地区センターでおこなった。今年度は調理時に出る野菜くずからつくれるベジタブルブイヨンを展開し、食べるスープ、にんじんごはん、かぶのピクルスを提案。若い主婦層から高年層まで幅広い参加者からたいへん好評だった。

- ・日 時 2014年10月～11月 (全6回)
- ・場 所 横浜市青葉区全域
- ・従事者人員 6人
- ・受益対象者 主に横浜北部在住の横浜市民 約60人 (広報対象者多数)
- ・支出額 162,493円

③ 地産地消を推進する事業

ア 【自主事業】あおばを食べる収穫祭 2014

・内 容

昨年度に続き、藤が丘商店会の協力を得て、地産地消に特化したマルシェイベントを開催。今年度はパルシステム神奈川ゆめコープの「市民活動支援金」を得て、マルシェ用テントを購入できた。当日は地域住民約2000人が来場、フードやドリンク、ステージイベント、ワークショップなどを楽しんだ。チラシではリユース食器の使用やマイ食器の持参を呼びかけ、約1500枚の食器利用に対し10%のマイ食器使用がみられた(マイ食器クーポンを配布した)。来場者や出店者の自主的なごみ回収の効果もあり、イベント全体で出たごみは家庭用ごみ袋にしてわずか1袋という成果が出た。

- ・日 時 2014年11月23日(土)
- ・場 所 藤が丘駅前公園(横浜市青葉区藤が丘)
- ・従事者人員 25人
- ・受益対象者 主に横浜北部在住の横浜市民 約2,500人
- ・支出額 472,011円

イ 【委託事業】『神奈川食べる通信』創刊号編集

・内 容

横浜市中区の地産地消カフェ「80*80」のオーナー・赤木徳顕氏が編集長を務める『神奈川食べる通信』創刊号の編集アドバイザーとして参加。

- ・日 時 2014年11月
- ・場 所 神奈川県全域
- ・従事者人員 1人
- ・受益対象者 神奈川県全域(発行部数1,000部)
- ・支出額 30,000円

④ 自然エネルギーを普及する事業

ア 【助成事業】次世代郊外まちづくり<たまプラーザ電力プロジェクト>

・内 容

横浜市と東急電鉄が進める次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクトに参画し、自然エネルギーの普及啓発、市民電力会社の発足を目指した活動をおこなった。2月にコミュニティパワー国際会議に参加、登壇。山形県立東根工業高等学校の生徒を講師に招いた「ソーラーパネルをつくり LED ライトを点灯する」ワークショップ、2月に竹村英明さん講演会、4月に多摩電力視察、多摩電力山川勇一郎さん講演会、5月に独立型ソーラーシステムワークショップ、6月に美しが丘中学校「BICUTS」で環境教育授業、7月にソーラーシェアリング視察、8月にあおば放課後芸術大学お披露目講座「風車ワークショップ」などの活動を重ね、9月26日に非営利型株式会社たまプラーザぶんぶん電力を設立した。今後、自然エネルギーの発電事業・節電アドバイス事業は株式会社でおこない、NPO 法人森ノオトは啓発・発信の窓口として、協働していく。

- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市青葉区美しが丘地区
- ・従事者人員 7人
- ・受益対象者 主に横浜市青葉区美しが丘地区の住民 (対象者約 20,000人)
- ・支出額 300,000円

イ 【委託事業】次世代郊外まちづくり<家庭の節電プロジェクト>啓発

・内 容

次世代郊外まちづくりでおこなう「家庭の節電プロジェクト」の啓発チラシの制作を担当。たまプラーザの夏祭りで配布した。

- ・日 時 2014年7月
- ・場 所 横浜市青葉区美しが丘地区
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 主に横浜市青葉区美しが丘地区の住民 (対象者約 20,000人)
- ・支出額 60,000円